



当院の新型コロナウイルス感染症対策を振り返って

感染管理室 松澤 亮

新型コロナウイルスは2020年1月14日にWHOがその存在を確認してから瞬間に全世界へ広がり、1月30日には、WHOから『国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態』が宣言されました。

当院は、感染症指定医療機関ではありませんが、両磐地域の医療を担当する広域中核病院とし、疑似症患者の検査・治療を行ってきました。当初は、未知の感染症であり、分らない部分も多くあったため、同じコロナウイルスであるSARSやMERSの感染対策を参考にしながら、検体採取の際はフルPPE（タイベック）で検体採取を行うことにしました。PPEは正しい着脱を行わなければ医療者の感染につながる可能性があるため、まずは使用する機会の多い、救急外来スタッフや疑似症を受入れする病棟のスタッフにPPE着脱訓練を複数回実施し、スタッフ教育をすすめました。3月の時点でPPEが不足していたので、そういった面からも対策は難しかったです。

現在は、様々なガイドラインが出ており、それらを参考にしながら院内の対応マニュアルを作成しています。新型コロナウイルス感染症対策で用いるPPE（ガウンタイプ）の着脱方法を必須感染研修会で全職員に周知し、地域で発生した際に備えています。また、一関保健所や県立千厩病院と連携しながら両磐地域で新型コロナウイルス感染症患者が発生した際の訓練や情報交換を行っています。

【主な取り組み】

- 3月11日～：PCR検査開始（保健所からの依頼）
- 3月30日～：院内新型コロナウイルス感染症対策本部設置
- 3月30日～：面会禁止開始
- 4月2日～：職員の流行地域への渡航報告開始
（4月7日：政府が緊急事態宣言を発令、
4月16日全国に拡大）
- 4月24日～：入館者への体温測定開始
当院受診患者への発熱外来
疑似症患者受入れ入院病棟の稼働
- 4月27日～：外注のPCR検査開始
（5月25日～：緊急事態宣言解除）
- 6月4日～：抗原検査開始
- 7月6日～：院内PCR検査開始
（9月28日現在総PCR数577件（県病では1番多い）



<岩手県立磐井病院 理念>

地域と連動し、患者さんにやさしく、質の高い安全な医療を提供します

<岩手県立磐井病院 基本方針>

- ①十分な説明と同意のもと、患者さん中心の医療を提供します。
- ②常に最新の医療を求め、高度でかつ専門的な医療を提供します。
- ③患者さんの安全を最優先としたチーム医療を提供します。
- ④地域医療と連動し、患者さんの健康増進、救急医療の充実に努めます。
- ⑤豊かな人間性と優れた専門技術を持った医療人を共育を行ないながら育成します。
- ⑥職員一人一人が自覚を持って健全な病院経営に努めます。
- ⑦新しいことはデータに従って理論的に行ない、必ず施行後に検証を行ないます。

Contents

- 当院の新型コロナウイルス感染症対策を振り返って 1～2
- 磐井病院専門・認定看護師からのお知らせ…… 2
- 磐井 ECMO チーム立ち上げ……… 3
- 知って役立つ！急変時の対応……… 4
- 新任医師紹介……… 4

【現在当院が行なっている対策についての紹介】

① 来院者の検温実施

正面玄関にサーマルカメラを設置し、体温・症状や感染者、県外渡航の有無等を確認しています。



② 全身麻酔手術前の新型コロナウイルス感染症 PCR 検査の実施

全身麻酔の手術は、気管内挿管を行うため、感染した患者さんを手術した場合、手術に関係した職員が感染しやすい医療行為です。入院患者さんや職員への感染を予防することを目的に PCR 検査を 8/17 から開始しました。今後、患者さんが安心して入院生活を送れるよう PCR 検査を拡充していく予定です。

③ 入院患者さんへの面会禁止

抵抗力が弱っている入院患者さんを守るために原則、面会を禁止しています。

【面会を許可する特別な場合】

- 1) 入退院時の付き添い
- 2) 手術、検査の当日
- 3) 病院から来院をお願いした場合
(病状説明や終末期または病状が不安定な患者等で、面会が必要と医療者が判断した場合など)

④ マスクの着用と手指衛生のお願い

当院では、日本医師会が作成した感染対策チェックリストに沿った対策を実施しておりますが、無症状でも人に感染させてしまう可能性があるため患者さんを含めた病院訪問者全員にマスクの着用と手指消毒(手洗い)の協力をお願いしています。



⑤ 職員の健康管理について

院内に持ち込みリスクを低減させるため、入院患者さんや外来患者さん、訪問者へ様々な対策をお願いをしていますので、職員へも医療従事者として健康管理に努めてもらっています。

- 1) 職員通用口にサーマルカメラを設置し、体温確認と症状の有無について実施
- 2) 県外への不要不急な渡航の自粛依頼と渡航の際の届出を実施

⑥ ゾーニングについて

COVID-19 対策を行う上で、ゾーニングはとても重要です。非清潔区域と清潔区域を明確に分ける必要があります。当院でもレッドゾーンと、イエローゾーン、グリーンゾーンに区分けして対応しています。

今後、冬季にインフルエンザと新型コロナウイルスの同時流行に備え、症状が似ている 2 つの疾患をどう対策していくかが課題ですので、みんなで知恵を出し合って取り組んでいきたいと思っております。

磐井病院 専門・認定看護師からののお知らせ

磐井病院では、現在 1 名の専門看護師、11 名の認定看護師が在籍しており、患者様のケアや相談に対応する事はもちろんのこと、院内看護師への指導や問題解決に尽力しております。特に当院は『地域がん診療連携拠点病院』として、がん関連の専門・認定看護師が充実しており、がん患者様の相談や支援にも力を入れております。9 月にはアドバンスケアプランニング (ACP) 研修会を開催するなど看護科全体で意思決定支援への理解と強化にも取り組んでおります。

医療は、地域包括ケアシステムの推進により、医療・介護サービスの提供の場は病院から地域へ移行しております。地域の看護師や介護職員の皆様も日々の感染状況の変化に注視しながら、重症化・多様化・複雑化する利用者へ最良のケアを提供するためにご苦労されているのではないのでしょうか。私たちは、スペシャリストとしてのスキルを院内活動だけでなく、院外でも発揮することで地域の看護の質向上に微力ながらお役に立ちたいと考え、地域のニーズについてアンケート調査を行いました。ご多用の中協力いただいた皆様ありがとうございました。

アンケートでは、救急看護分野に関する『急変時の対応』や『緊急度・重症度の判断』、『感染対策全般』について専門的な知識や情報を求めている状況がみえました。

そこで今回は、ニーズの高かった『急変時の対応』(4 ページ目)について救急看護認定看護師よりご紹介いたします。

磐井ECMOチーム立ち上げ

救急科 災害医療科長 前川 慶之

令和2年度岩手県立病院等事業会計2号補正予算（新型コロナウイルス感染症対策）により、当院にもECMOが導入されることになりました。ECMOは『体外式膜型人工肺』『人工心臓』などと訳されますが、新型コロナウイルス感染症に対する最後の治療手段として知られるようになりました。これは、重要な構成要素として①心臓の代わりとなるポンプ、②肺の代わりとなる膜型人工肺を含む、生命維持装置です。

当院のECMO導入は社会的にも大きなインパクトを有しており、県民・両磐医療圏の皆さんの期待に応えるために、我々も知識と技術の向上を進める必要があります。体外循環技術は高度の訓練が必要であり、一朝一夕に実現できるものではありません。

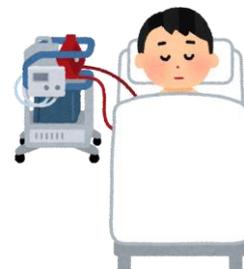
幸い当院は総合病院であり、専門医（循環器、救急、集中治療、麻酔）、認定看護師（救急・褥瘡・感染・医療安全）、臨床工学技士等、多数の専門性の高い医療従事者が在籍しています。この病院の知的財産を総動員し、ECMOに特化したチームを作り上げます。

また、地域の消防・救急と協力し、ECMOが必要な患者さんが当院に速やかにアクセスできるよう、ネットワークも構築していきます。

重篤な心疾患、肺疾患など、ECMOでしか救えない命があります。

ECMOの対象となる疾患は、表の通りです。ECMOは限られた医療資源であるため、諸外国では適応年齢を救命可能性の高い65歳（本邦では70歳前後）以下としていることが多いようです。

ECMOの補助する臓器	代表的な疾患
①心臓	急性心筋梗塞、激症型心筋炎、産褥心筋症 難治性不整脈（遺伝性不整脈、中毒等） 低心拍出量症候群（心臓手術後、心臓カテーテル後等）
②肺	ウイルス性肺炎（新型コロナウイルス感染症等） ARDS、解除困難な気道狭窄
③心臓と肺	肺動脈塞栓症、偶発性低体温症、心肺停止の一部



写真は、9月5日に岩手医科大学で開催された、厚生労働省ECMO講習会の風景です。

人形に、カニューレ（血液を取り出したり送り込んだりする径10mmくらいの管）を挿入し、ECMOを稼働させて血液に見立てた人形の水を取り出し、人工肺で酸素を与えて送り込むトレーニングです。

血液の代わりに水を使用するため、『ウォータードリル（水訓練）』と言います。米国のECMO施設では、トラブルがないよう数ヶ月ごとにこの訓練を行うようです。私たちも、当面の間ウォータードリルを繰り返し、技術の向上に努めて参ります。

院内外のみなさま、今後ともご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



知って役立つ！急変時の対応

救急看護認定看護師 佐藤加代子

人間は生きている証として、バイタル（生命）サイン（徴候）を出しています。バイタルサインは、意識、呼吸、脈拍、血圧、体温から知ることができます。体内で何かしらの異常が起こると、その症状や反応からバイタルサインに変化がおきます。嘔吐やけいれん、腰痛や胸痛でもバイタルサインの何に異常を示しているのか、観察することから始まります。そして、それぞれの初期対応が予後に関わってきます。

意識：呼名や痛み刺激に反応はありますか？返答や行動は正常ですか？

→意識に異常があるときは臥床安静にして呼吸循環の観察と、症状にあわせた処置をします。

呼吸：（気道確保）声は出せますか？いびきはかいていませんか？

のどの奥でゴロゴロ聞こえますか？

→頭部後屈あご先挙上（右図）で気道確保、痰や異物は気管吸引を行い酸素の通り道を確保します。

（呼吸）胸が上がる呼吸をしていますか？呼吸は遅かったり（10回/分未満）速かったり（30回/分以上）していませんか？

→呼吸が無ければバックバルブマスク（商品名：アンビューバック：右図）で人工換気をします。呼吸数の異常がある時は酸素投与を検討します。

血圧・脈拍・体温：顔色はどうですか？冷汗はありますか？脈拍をどこで触れることができますか？（下身体図）

脈拍のリズムは速いですか遅いですか？規則的ですか？

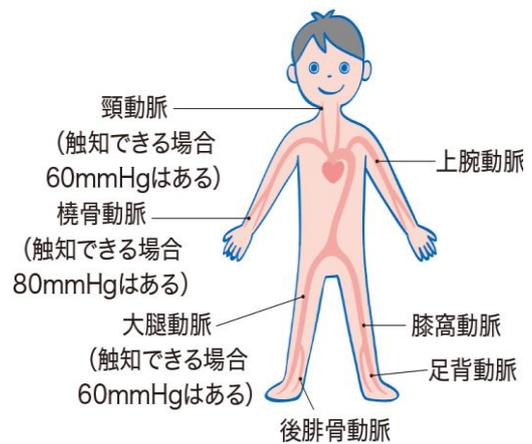
→冷汗や脈拍が微弱な時は下肢を挙上し血液を心臓に集めます。脈拍が触れない時は胸骨圧迫を開始します。

これらの観察は自分の五感を使って知ることができます。

脈拍がどこで触れるかで（身体図）、血圧計がなくとも血圧を予測することができます。

どのような症状であっても、バイタルサインの異常を観察しそれに沿った対応を行ったうえで、その他に見られる症状とその後の経過を観察することが重要です。

症状ごとの詳しい対応についてはいつでもご相談ください。



10月より新しく赴任される先生方の紹介です。

連携機関の皆様、どうぞよろしくお願いたします。

- 氏名 鳩山 恵一郎 (ほとやま けいいちろう)
役職 外科医長
- 氏名 林 夏穂 (はやし なつほ)
役職 第3泌尿器科長
- 氏名 安藤 宏輔 (あんどう こうすけ)
役職 産婦人科医師



岩手県立磐井病院

【連絡先】

〒029-0192 岩手県一関市狐禅寺字大平17
電話(0191)-23-3452 Fax (0191)-23-9691
連携室直通 Fax (0191)-21-3990

【編集・発行】

岩手県立磐井病院 地域医療福祉連携室
病院ホームページ：<http://www.iwai-hp.com>
公式 Facebook：<http://www.facebook.com/iwaihp>